CITIZEN

BETTER STARTS NOW

Expansion Time

2015年、シチズン バーゼルワールドのインスタレーションは「宇宙のはじまりの直後」とはどのような状態だったのかという構想からはじまりました。

「宇宙のはじまり」、そこは光も時間も空間も物質も全てが未分化で、全てが「ひとつ」の状態でした。それは「宇宙」がはじまる予兆としての瞬間があったのだろうと想像します。そして「宇宙のはじまりの直後」という状態は、光や時間や空間や物質がそれぞれの性質を持ちはじめたばかりの直後、その活動、そこから拡がる宇宙と時間の行方、それらを「Expansion Time」としてシチズンのインスタレーションで試みました。

我々は「時間」について更なる深いリサーチを行い、知っていると思い込んでいる「時間」は、実はほんのひと握りの「時間」しか解っていないことに気づかされたのです。「宇宙は絶対に止まらない」。そこに「時間」の謎と可能性が潜んでいると知ったのでした。「Expansion Time」は、伸びたり歪んだりする時間を投影する装置です。地板約10,000枚の物質と空間の余白に生まれる光と影の動きが、我々がまだ知らない「時間の体験」を与えるインスタレーションとなります。

今回はシチズンが誇る技術のひとつである「スーパーチタニウム™」を体験するギャラリー空間を設えました。シチズンの最新のチタニウム加工技術と表面硬化技術によって実現した「スーパーチタニウム™」の質感と強度について、そしてシチズンがチタニウムと向き合いながら実験を重ねた「スーパーチタニウム™」の軌跡と素材の可能性について知ることができる展示ギャラリーとなっています。

2013年の『Frozen Time』、2014年の『Compressed Time』に続き、我々は未知なる「時間の可能性」をより感情的な体験として来場者に伝える為に、2015年『Expansion Time』が生まれました。

田根 剛（DGT.）

DGT.（ドレル・ゴットメ・田根 / アーキテクツ）

2006年よりダン・ドレル、リナ・ゴットッメ、田根剛の共同主宰により、DGTをパリに設立。エストニア国立博物館・国際設計競技を受賞した DGT は、パリを拠点に『場所の記憶』をテーマに建築の創造を試みている。現在建設中の『エストニア国立博物館』（2016年完成予定）をはじめフランス、イタリア、日本 、レバノン、スイスでプロジェクトが進行中。2008年、イギリス·ICON MAGAZINE「世界で最も影響力ある若手建築家20人」に選出、2012年には新国立競技場国際コンペティションで『古墳スタジアム』がファイナリストに選ばれ国際的な注目を集めた。フランス文化庁新進建築家賞（2007）、Red Dot Award Winner（2013）、ミラノ・デザイン・アワード・２部門受賞（2014）など多数受賞。

遠藤 豊（Yutaka ENDO）

LUFTZUG 代表 / アートディレクター / プロデューサー / テクニカルディレクター
1977年新潟生まれ。舞台芸術を中心に、音楽、映像、デザイン、コンピューターテクノロジーとの関わりを独自に作り出す。02年以降はアートディレクター、プロデューサー、テクニカルコーディネーターとして様々な分野の企画に携わる。05年トランスボーダーな表現と創造的なディレクションを行うための意思として有限会社ルフトツークを設立。「曖昧なメディアの媒介としての役割を確立」しようと活動を広める。プロデュースやテクニカルスタッフとアーティストの、また技術とアイデアの架け橋として、社会的役割を果たすためのプロダクションを成立させることにつとめる。近年は国内外で積極的に活動を行う。2012年ルフトツーク·ヨーロッパをアムステルダムに設立。積極的な人と間隔の交流を目指し、拠点の境目をなくし、感覚の遍在化を目指す。テクニカルディレクターとして、ミラノサローネ（Canon 2010-2012年、Panasonic 2013-2014年、CITIZEN 2014年）、CITIZEN Baselworld（2013-2015）、銀座 SONY Building インスタレーション（2011-2013年）、平田晃久 Tangling展（2012年ロンドン）、デザイン展「モノ・オトと映像の部屋」（2013年 東京）、熊谷和徳 HEAR MY SOLE（2014年東京）、「北斎」展（2014年 パリ）他、映像、音響、照明演出などに携わる。